



女性NGO3団体 & 国連代表部共催 サイドイベント報告



CSW62 政府代表団 NGO代表
JAWW(日本女性監視機構) 代表
浅野万里子

**テーマ：農山漁村地域の女性と少女のエンパワメントに
むけての活動** Actions to Empower Rural Women and Girls

日時：2018年3月13日（火） 13:15 - 14:30 pm

会場：国連ビル 会議棟 3階

Ex-Press Bar

参加者：23カ国、128名

配布チラシの写真



背景・目的

- 女性は、世界の食の安全保障、農山漁村地域の環境・経済・社会の維持・発展に大きな役割を果たしており、「2030アジェンダ」（SDGs）では、ジェンダー平等と女性と少女のエンパワメントは重要な位置づけを与えられている。
- しかし、農山漁村に住む女性の置かれている環境は厳しく、経済的機会、ICT技術や教育・訓練、保健医療、決定参画などの権利の実現から遠く、性に基づく差別を受けやすい。
- このような課題を克服するためさまざまな努力が行われている。取組を共有し、現状を変えるためにどうしたらよいか考えたい。

平松昌子さん(国際婦人年連絡会)



本日の議論から多くの示唆を得ることができればうれしく思います。

女性は平和構築に力を発揮することができます。



山中燐子世界津波の日特別大使

星野俊哉国連日本代表部次席常駐代表大使



日本においても農山漁村地域の女性は家父長的な慣習などの課題に直面しています。素晴らしいパネリストとともに有益な議論が行われることを期待します。

スピーカー & モデレーター



シャンタ・ラクシミ・シュレスタ (ネパール)

Ms. Shanta Laxmi Shrestha

Beyond Beijing Committee (BBC)代表

SDN代表、APWW理事

キヴァ・F・ムベンバ (JICAタンザニア)

Mr. Kiva Mbemba

コメ振興支援計画プロジェクトカウンターパート
タンザニア農業省ウキリグル農業研修所教官

マルタ・オソリオ (国際連合食糧機関(FAO))

Ms. Martha Osorio

ジェンダーと農村開発官

結城こずえ (農水省支援「農業女子」プロジェクトメンバー)

山形県天童市で果樹栽培、ライフフルーツの加工・販売、JAてんどうフレッシュミズ部会長

モデレーター 織田由紀子 JAWW (日本女性監視機構) 副代表

結城こずえさん（天童市）

「農業女子のためのネットワークづくりの重要性」

農水省支援の「農業女子」のネットワークを通じて新しい情報や刺激を受けました。地域の女性農業者のネットワークを作ること、次世代の女性リーダーが育つ環境を作りたいと思っています。

最初の第一歩は次の行動につながると信じています。

16年間英会話スクールの講師やマネージャー。畑や果樹、豊かな景色を絶やしたくないと思い、天童市に戻り就農。



キヴァ・F・ムヴェンバさん

JICA**タンザニア**米作支援プロジェクトにおけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント

ジェンダー主流化はチャレンジです。

しかしこのプロジェクトにはガイドラインがあり、これを使って実践しています。

男性は最初は半信半疑でしたが、現実が良くなっているのを見るのと、前向きに変わっていきます。10年後、15年後にはタンザニアの農村は大きく変わっていると確信しています。



シャンタ・ラクシュミ・シュレスタさん

ネパールにおける政治と政策を通じての女性と女児のエンパワーメント

2015年はネパールの女性にとって歴史的な年でした。初めて女性が大統領、国会議長、最高裁判所長官と三権の長につきました。

新憲法では、連邦議会から地方議会まで女性を33%とすることが謳われました。

これにより農村の女性たちの参画が可能になりました。

この憲法は私たちが闘い取ってきたものです。



マルタ・オソリオさん

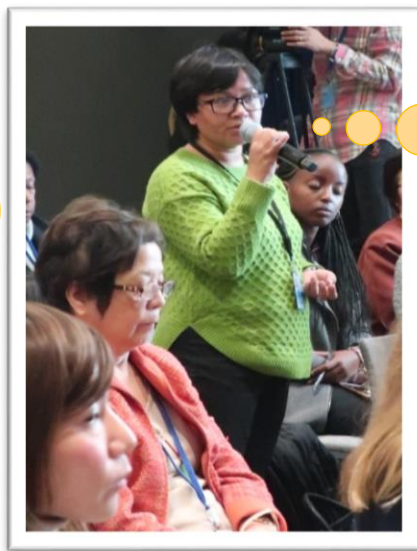
女性と土地

土地は農業と農村経済にとって大切な資源で、土地の所有権は女性のエンパワーメントに大切です。女性の土地所有権が確保されることにより、男性への依存を減らすことができ、また世帯における決定参画が高まり、さまざまなサービスへのアクセスが可能になります。

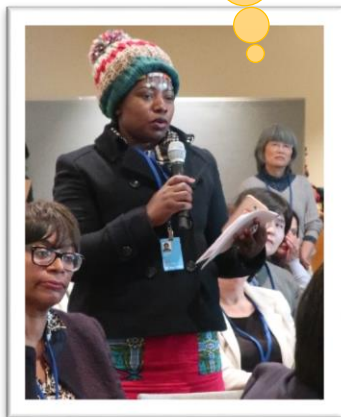
FAOは途上国が食料安全保障の視点からジェンダー平等な土地所有政策を作るのを支援しています。またSDG目標5の女性の土地所有権の法的枠組みに関する指標の実施にも取り組んでいます。



食の安全保障、
平和構築を中
核に考えるべ
きだと思います。



女性は社会
的、経済的エンパ
ワメントの機会
から排除されてい
ます。



会場の様子

まとめ

報告では、農山村漁村のジェンダー平等と女性のエンパワーメントを達成するためには、

ネットワークに基づき、自分たちで動きを作り出すこと、
あらゆる機会にジェンダー平等を組み込み、国、社会全体の
取組みとの連携すること、そして
女性の資産へのアクセスを高める政策が重要であること

が強調された。

今回紹介されたような世界各地で行われている努力がつながること
で、「誰ひとり取り残さない」社会にすることができる…。

振り返り～モデレーターより～

- 結城こずえさんに、日本の農村で農業に取り組む女性当事者の思いを英語で発信していただき、また、広報効果もあってメディアの反響が大きかった。
- 日本がODAを通じてどのように世界のジェンダー平等に貢献しているかを、JICAプロジェクトのカウンターパートである男性からお話いただくことができたのはインパクトがあった。
- 日本、アフリカ、アジア、国際機関のスピーカーから、多様なレベルの話を引き出すことができた。

結城さんの活動はメディアでも紹介されました！

山形新聞 2018年3月15日

農業女子 英語で紹介

天童の結城さん 国連のパネル討論



【ニューヨーク共同】ニューヨークの国連本部で13日、農村部の女性の地位向上支援をテーマにしたパネル討論が開かれた。女性農家の取り組みを後押しする農林水産省の「農業女子プロジェクト」に参加した天童市貫津の農業結城こずえさん(44)が、ドラ

さんは(44)が、農村部でのドライフルーツ生産など新しい取り組みの経験を英語で紹介し、注目を集めた。結城さんは英会話学校に勤めていたが、3年前に両親の果樹園を継いだ。贈答用が主な販売先だったが、顧客は高齢化しており需要

13日、国連本部でのパネル討論に参加した結城こずえさん(右端) ニューヨーク(共同)

は減ると考え、若い世代に好まれるブドウやスイカ、リンゴのドライフルーツやサクランボの酢漬けの生産を開始。輸出が始まるなど軌道に乗つつある。結城さんは、伝統的な農家の女性には農作業と家族の世話話以外のことをするのは難しいと説明。農業女子プロジェクトへの参加は初めてという結城さんは終了後「女性の地位向上を目指す世界の人々の熱意に触れ、自分もさらに声を上げ、一歩を踏み出そうと思った」と語った。

日本農業新聞 2018年3月15日

農業女子 発信 成功例を共有

国連討論会 山形結城さん

【ニューヨーク共同】「フルーツ生産など新しい取り組みを英語で紹介し、注目を集めた。英会話学校に勤めていた結城さんは3年前、親の果樹園を継いだ。贈答用を主に販売していたが顧客の高齢化で需要は減ると考え、若い世代が好むブドウやスイカ、リンゴの酢漬けの生産を開始。輸出が始まるなど軌道に乗つつある。結城さんは、農家の女性には農作業と家族の世話話以外のことをするのは難しいと説明。プロジェクトを通じて「他の地域の成功例に学ぶことが励みになった」と述べ、ネットワーキングが成功につながると強調した。結城さんは終了後、女性の地位向上を目指す世界の人々の熱意に触れ、一歩を踏み出そうと思っ

たと言った。参加した女性たちは「首都圏で農業を始めた。参考になった」と話した。討論は日本の国連代表部や非政府組織(NGO)の共催で、12月23日の予定で始まった「女性の地位に関する委員会」年次会合の関連行事として行われた。

NHKweb ニュースや
ジャパントイムズでも紹介されました。



Japanese female farmer offers inspiration to young women at U.N. gathering (APR 11, 2018 Japan Times, News)

<https://www.japantimes.co.jp/news/2018/04/11/national/japanese-female-farmer-offers-inspiration-young-women-u-n-gathering/#.NWv0skTRCaE>

お 礼

本イベントは、

ニューヨークまで足を運んで下さったスピーカーの皆様、

スピーカーを派遣して下さった農林水産省および国際協力機構
（JICA）の関係者の皆様、

共催の外務省、国連日本政府代表部、国際婦人年連絡会、

国連NGO国内女性委員会、JAWW（日本女性監視機構）の皆様、

そしてCSW62にご参加の多くの皆様のご協力で実施できました。心より感謝申し上げます。

有難うございました。